

この度、地域医療研修として、2021年9月の1ヶ月間、朝来市のそよかぜ診療所及びはるかぜ診療所でお世話になりました。普段大学病院で研修している私にとって、両診療所で過ごした時間は大変貴重な経験となりました。

神戸市から北へ約100キロ、兵庫県のほぼ中央部に位置する朝来市は、播磨、丹波、山陰を結ぶ要衝の地として発展した但馬地方南部の中心都市です。清流円山川が流れ、美しい山々が街のそばまで迫り、古墳群や竹田城、生野銀山などの史跡も点在する地勢は、私の生まれ育った和歌山県紀南地方にどことなく雰囲気が似ており、懐かしさのような感情を覚えました。異なる点といえば、田畑にコウノトリが舞っていること、海に面していないことくらいでしょうか。

診療所内ではエコー検査(頸部・心臓)や血液検査、X線検査、外来診察などの業務に携わりました。特にエコー検査は、侵襲なく手軽に行える大変有用な手技であり、丁寧にご指導いただきとても勉強になりました。また、コロナワクチンの接種もさせていただいたことも良い経験となりました。大きな病院以外では、可能な検査、治療の選択肢は限られている場面も多々あります。その中で、より基本的な診察に立ち返り、時には他愛もない会話からヒントを探り、目の前の患者さんには何が必要なのか、何をすべきなのかを考える―普段の研修で忘れがちなことを再確認させられました。

訪問診療にも毎日伺わせていただきました。独居、二人暮らし、多世帯住宅、介護施設など、患者さんの居住空間は千差万別です。実際の生活の場にお邪魔することで、患者さんはよりリラックスした状態で診察を受けることができますし、医療者としても生活の様子や家族・地域との関わりを目の当たりにすることで、個々の実情により即した形で医療に繋げていくことができます。医療者、行政、そしてご家族など、様々な立ち位置の人間が認識を共有し、包括的に患者さんに関わっていくことが不可欠なのだと感じました。患者さんの看取りに立ち合い、エンゼルケアをさせていただく機会もありました。ご家族は涙されながらも、故人が慣れ親しんだご自宅で最期の時を迎えられたことに安堵されるような表情を浮かべておられたことが、とても印象的でした。都会の病院とはまた異なった、より近い距離感で患者さんに関わり、地域の中での生活を支えていくことは、まさに地域医療の醍醐味だと実感しました。

「楽しく生きて、楽に死ぬ」―診察室に掲げられた診療所の理念です。日進月歩で発展する現代医療は、治せなかった病を治し、救えなかった命を救うことを可能にしています。しかし、高度な医療にすがりついて命を延ばすことは、必ずしも万人にとっての幸福ではないのかもしれない。多様な価値観が認められるこの時代において、個々人がよりよい生き方、そしてよりよい人生の終え方を追求することは重要性を増しています。患者さん一人ひとりの思いに寄り添い、それぞれにとって最良の選択ができるようにサポートすることの大切さ―地域医療、在宅医療だからこそその学びを得ることができた一ヶ月間でした。

最後に、貴重なお時間を割き、いつもにこやかにご指導、お声がけくださった秀樹先生、静子先生、黒瀬先生、スタッフの方々、岡本家の皆様にご心からの御礼を申し上げます。未曾有の状況下、どうぞお身体にはお気を付けください。また何処かでお会いできる日を楽しみにしております。

